

今月のトピックス

- ・全国モモ研究大会 in 鹿角! ……《ブランドアップ戦略レポート》
- ・農業に光をテラス。鹿角エヌ・シー・エル(株)高橋社長 …《鹿角ヒト情報》
- ・今年もやるよ ばんび☆バザール …《ブランドアップ関連ニュース》
- ・伝説が結ぶつながり ……《室長コラム》

鹿角ブランドアップ戦略レポート

桃 花 プロジェクト



「第49回全国モモ研究大会秋田県大会」が開催されました

6月7日、標記大会がホテル鹿角で開催され、生産者の方々を中心に、全国のもも産地から関係者約500人が参加しました。



大会では、佐竹知事が特別講話を行い、ももをはじめとした、ふぐ・桧山茶の北限シリーズの紹介や、「あきたびじょん」の戦略的展開などを紹介しました。



また、記念講演として、劇団「ぜんとうようくらぶ」代表で内閣府「地域活性化伝道師」の志村尚一氏が、日本農業の将来展望とそれを支える農村の若者、また、若者の定着に向けた取り組みを、自らの関わった事例を交えて講演されました。

志村氏の講演は、農業後継者が定着できる農村の形成を最終目標に／消費者に近いところに立ち位置を保つ／販売ターゲットのニーズを的確に把握する／マーケットインの発想で売れるものを作る／商品の背後にあるストーリーが消費者の気持ちをつかむ

といったブランドマーケティングそのものをベースとした講演でありました。

2日目の園地視察では、プロジェクトメンバーの佐藤一さんの園地も視察先となり、参加者の方々に、もも(缶詰)のデザートが提供されました。



桃農家 佐藤一さん

「(公財)日本サッカー協会こころのプロジェクト 5周年記念事業」に本市も参加しました!



桃の果肉を原料としたゼリー

6月4日、東京で行われたJFA「こころのプロジェクト5周年記念パーティー」で、北限の桃の果肉を使用した洋菓子(ゼリー)が記念品として振舞われました。祝賀会には、トッパースリートなど、日本を代表する著名人も参加しており、「かづの北限の桃」を通じて「鹿角」の知名度向上に貢献しました!

モモ研究大会でもも(缶詰)提供・こころのプロジェクトでの記念品提供など、桃花プロジェクトメンバーの取り組みが、実益に繋がる例もでてきました。今年度もメンバーの皆さんと一緒に、試行錯誤しながら取り組んでいきましょう!ご興味をお持ちの方も、ぜひご参加ください。

コミュニティFM プロジェクト

鹿角コミュニティFM株式会社設立発起人会は、FM局開局に向け、本格的に活動を開始しました。まずは、会社の設立に向けて出資者の申し込みを開始しています。発起人の8名が中心となって、ラジオが提供できる機能や楽しさを伝えるため、市内の事業者などへ説明に奔走しています。

また同時に、コンサルタントの川井氏のアドバイスを受けながら、開局申請書類の作成を急いでおり、6月中には申請書(原案)として総務省東北総合通信局に提出予定です。さらに、可聴エリアで最適なFM局の周波数を調査する「潜在電界調査」も6月中に実施することとしています。

ソフト面では、発起人と有志が集まり、番組編成サポートチームが詳細な番組編成作業を進めており、誰もが聴きたくなる、楽しくて魅力的な番組づくりを進めているところです。「この地域を元気にしたい!その起爆剤にしよう!」「地域結束の基盤としたい!」「災害時には地域住民の生命と財産を守れる放送局でありたい!」

発起人の熱い想いに、どうかご協力とご支援をお願いします。

米 粉 プロジェクト



酒蔵を視察する安藤さん

5月31日(水)に「米・米粉加工品ブランドアップ事業」(以下、事業)によるワークショップが、事業全体にアドバイスを頂いている(株)DDR 代表の安藤 竜二さんを講師に迎え、かづの商工会で開催されました。今回は勉強会に先立ち、安藤さんにメンバーの事業所や名所・旧跡などを回っていただき、鹿角地域を深く理解して頂きました。その後の勉強会では、安藤さんからの課題でもあったブランド化に向けたストーリーを整理するため、メンバーがグループ毎にまとめた各種資源(伝説・祭り等)と農業(米・米粉)などの繋がりについてグループの代表がプレゼンを行い、メンバー自身も鹿角地域の魅力を再確認しました。安藤さんからは、ユネスコ無形文化遺産の大日堂舞楽に代表される優れた資源等の活用や消費者にストーリーを伝えていくための手法、ターゲットの設定、地域がつながり情報発信していく重要性など、実例を交えながら具体的なアドバイスを受けました。また今回は、メンバーが共有すべきプロジェクトの名称や概要、想定するターゲットに向けたPRツールの作成などについて課題が出されました。今後は、引き続き安藤さんからアドバイスを受けつつ、ワークショップを通してこれらの課題を解決しながら統一ブランド化に向け、事業展開を図っていくことにしています。



ワークショップの様子

今年もやります！ ばんび☆バザール in かつの元気フェスタ



かつの商工会では昨年度に引き続き、鹿角市内在住の小学3年生～6年生を対象とした起業体験プログラム『ばんび☆バザール』を実施することとなりました。

次代の産業を支える人材を育てるためには、子どもが本来持っている企画力・発想力・行動力を刺激し、「働くこと」の楽しさ・難しさを実体験を通して学ぶ「起業家（アントレプレナー）教育」を早期から実施することが効果的と言われ、こうした動きが全国的に広まりつつあります。

本プログラムでは、子ども達に「会社を起こすことから、原料の仕入れ、商品の製造・販売、決算まで」という経済の流れを楽しく疑似体験するプロセスを通じて、「失敗をおそれずに挑戦するところ」「自分の考えで行動できる力」「チームワークの大切さ」「他人を評価し尊重するきもち」そして「お金の大切さ」を学ぶことを狙っています。

昨年はあいにくの天候で客足も伸び悩む中、協力し合って完売を目指す等、「商売の難しさと楽しさ」を体験しました。終了後は具体的にどこが難しかったのか、楽しかったのかをしっかりと反省しましたが「また参加したい!」という声が多数を占め、効果的な取り組みとなりました。

今年の詳細につきましては鹿角プラットホーム戦略室facebookにて随時更新していきますので、そちらをご覧ください。



【鹿角プラットホーム戦略室facebook】<http://www.facebook.com/KazunoPF>

PEOPLE of 鹿角 ヒト情報

鹿角エヌ・シー・エル(株)
代表取締役社長 高橋 健一 さん



「苗テラス」導入で農業分野に進出した
鹿角エヌ・シー・エル(株) 高橋社長

鹿角NCL株式会社といえば電子部品生産の主要企業。この5月に三菱樹脂(株)との契約を終え、人工光閉鎖型苗生産システム「苗テラス」を導入し農業分野へと参入した。このシステムで生産を目指すのは甘草。漢方薬のほか、化粧品、健康食品の原料とマーケットは広い。

導入にこぎ着けたのは、革新を恐れず一歩先を読む高橋健一社長の行動力によるもの。県の助成金もつめた。「これまでも大変だった。やっとスタートを切ったところ。これからが本番。」新しいことを堅実に進める姿勢からスケール感が垣間見える。

「収穫の仕方や乾燥の仕方、課題はつきないが、悪いこともきっちり説明して、農家さんとしっかり結びつきを作りたい。薬草を植えたいなと好感を持ってもらえる取り組みにしていきたい。」甘草の栽培は苗テラスでの育苗後土壌で行われるため地元農家との連携は必須である。スピード感とトライする気持ちを大切にしている高橋社長、甘草の産地化へ向け、農業への熱いビジョンを持ちながら走り続ける。



10cmほどにのびた甘草の苗

鹿角ブランドアップセミナー開催



5月23日、鹿角市交流センターにて、大手食品メーカー味の素(株)の技術担当者3名を講師に招き「鹿角ブランドアップセミナー」が、開催され、市内の食品関連事業者の方々約30名が出席されました。食品の衛生管理・調味料の使い方・商品開発についての各テーマでご講演を頂きました。「Cook Do」や「丸鶏がらスープ」等ロングラン商品や「ピュアセレクト・マヨネーズシリーズ」のヒット商品を持つ食品トップメーカーの保有する高い加工技術や豊富なノウハウは、今後の商品開発やレシピ開発やマーケティングや販路拡大のヒントとして大変参考になりました。特に「調味料を活用した品質の維持・向上」のカリキュラムでは「味液」の持つ有用性や褐変性の比較、また安全・安心な「アロマックスSN」を使用する事で得られる高いコストパフォーマンスや呈味力価の向上・劇的な味の変化など、普段おおよそ意識していなかった「味の深さ」についても体験できました。この度の研修で得られた情報や知識を、どのように経営資源に活かしていくかが課題になると思われます。今後もあきた企業活性化センターや関係機関と連携を図りながら皆様の役に立つセミナー等を企画して行きたいと思ひます。

第1回ブランドアップ補助金 審査会開催

5月21日、関係機関から審査員を招いてブランドアップ補助金審査会を開催しました。



申請者は、アートフォルム有限会社の橋野浩行さん。発想のすばらしさは審査員一致の見解でした。

アイデアが形になるってすばらしい。作ってみたい、やってみたい、そんな取り組み応援をします。ブランドアップ補助金は、産業連携推進室にて随時受付しています。

つぶやき～コラム～

前回鹿角の伝説のコラムを書いたが、「だんぶり長者の遺産」という書を読んだ。正直いってはまだ…。特に長者夫婦の娘「吉祥姫」の生い立ちと時を超えた偶然な繋がり。だんぶり長者の伝説については今更ながら語るまでもないが、吉祥姫は、その美しさから時の継体天皇の側室になり、晩年は、体調を崩し、故郷に帰り余生を送ったとのこと。

こまではよくある物語の流れ。しかし、ここで自分の気を惹いたのは継体天皇の出生地。今でいう福井の出、だとのこと。本誌を発行している当室は、今年度、市内全小中学校で行っている「夢の教室」を通して繋がり、深くなっている日

本サッカー協会の協力を得、「鹿角市」の知名度向上を目的としたPR戦略を展開する。なんと、その同協会会長である小倉純二氏は福井出身であり、つい先日鹿角入りをしており、普通ではなかなかあり得ない繋がり、今展開されている。そんな折、たまたま前述した書で「吉祥姫」の生い立ちを知り、今、我々の回りで展開されている出来事と重ね、まさに「吉祥姫」が結んだ縁なのかもしれないと感じた。あまりの偶然に、少し寒気がした。自分は自称「科学者」だが、人間の中にあるDNAのもつ「感性」「想い」は信じている。

鹿角にある「貴っ重う(きつちゅう)」な伝説に、ブランドに必要なストーリーのヒントが隠れているかもしれない。(ブロードル)



ヒト・モノ・ワザ情報
お待ちしております!